

公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

第1 法人の概要

1 代表者

理事長 堀場厚

2 所在地

京都市左京区下鴨半木町1番地の26

3 電話番号

075-711-2244

4 ホームページアドレス

<https://www.kyoto-ongeibun.jp/>

5 設立年月日

平成5年3月31日

6 基本財産

103,000千円（うち本市出えん額 55,000千円、出えん率 53.4%）

7 事業目的

京都市世界文化自由都市宣言の理念に基づき、音楽、演劇、舞踊その他の芸術及び芸能を振興し、国内外へ発信することにより、京都が優れた文化を創造し世界文化交流の中心であり続けることに寄与するとともに、市民が生きがいのある文化的な生活を送ることができる社会づくりに貢献すること。

8 業務内容

- (1) 芸術及び芸能の振興並びに伝統芸能の継承及び発展に資する事業
- (2) 京都の文化芸術の国内外への発信と交流の促進に資する事業
- (3) 京都市交響楽団による芸術の振興及び発信に資する事業
- (4) 文化芸術を通して地域社会の活性化や健全な発展に寄与する事業
- (5) 文化芸術の振興拠点として、創造的な活動が不断に行われるための施設の管理運営
- (6) その他法人の目的を達成するために必要な事業

9 所管部局

文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課(TEL075-222-3119)

10 役員名等

(1) 理事長

堀場厚

(2) 専務理事

森川佳昭

(3) 理事

阿部裕之、片山九郎右衛門、桑山彩子、榊田隆之、染川里美、竹内善行、西本清一、砂川敬（京都市文化芸術政策監）

(4) 監事

津嶋俊郎（文化市民局くらし安全推進部長）、中路健一

11 職員数

常勤職員数 190名（うち本市派遣職員 6人）

(2) 事業実績（令和3年度）

(1) 公益目的事業

ア 京都コンサートホール

(ア) 主催・共催事業（46事業 56公演 3講座（うち中止 12事業 12公演、延期 2事業 2公演））

- a 京都市交響楽団の更なる飛躍を促進
- b 質の高い音楽芸術の鑑賞機会を提供
- c 日本有数のパイプオルガンの活用
- d ジュニアオーケストラの運営／大学生を中心とした実演家の育成支援
- e 子どもや青少年の創造性を育む事業
- f 地域の活性化と市民参加型演奏会の開催
- g 賑わい事業の開催
- h 音楽芸術の人材育成のための支援制度

(イ) 受託事業

- a 指定管理業務
- b お客様へのサービス向上に向けた取組
- c 広報・宣伝、チケット販売営業及び外部資金獲得等に関する業務
- d 各種会員制度等の運営

イ 地域文化会館（東部文化会館、呉竹文化センター、西文化会館ウエスティ、北文化会館、右京ふれあい文化会館）

(ア) 主催事業（55事業 67公演 8講座（うち中止 11事業 14公演 3講座、延期 1事業 1講座、4事業実施なし））

- a 地域文化芸術活動活性化協議会の開催
- b 地域文化会館の重点的な取組
 - (a) 文化芸術活性化パートナーシップ事業
 - (b) 地域における文化芸術普及事業
 - (c) 地域の文化芸術活動を担う人材育成事業
 - (d) 住民の文化芸術活動への支援型事業
 - (e) 施設間の交流事業

(イ) 受託事業

- a 指定管理業務
- b お客様へのサービス向上に向けた取組
- c 利用促進向上の取組

ウ ロームシアター京都

(ア) 主催・共催事業（32事業 83公演 7講座（うち中止 4事業 8公演、延期 2事業 7公演））

- a 主催・共催事業関連
- b 賑わいスペース事業
- c ミュージックサロン事業

(イ) 受託事業

- a 指定管理業務
- b お客様へのサービス向上に向けた取組
- c 広報・宣伝、チケット販売営業及び外部資金獲得等に関する業務
- d 各種会員制度の運営

エ 京都市交響楽団

(ア) 主催・共催事業（30事業 53公演（うち中止 2事業 5公演））

- a 定期演奏会
- b 特別演奏会
- c 市外公演

- d オーケストラ・ディスカバリー ～こどものためのオーケストラ入門～
 - e みんなのコンサート
 - f ロームシアター京都及び地域文化会館との連携事業
 - g 共催事業
 - h その他演奏会等
 - (a) 楽器講習会等
 - (b) 京響コーラス
 - (c) 京都市ジュニアオーケストラ
 - (d) 派遣（アンサンブル）演奏
 - i 京響友の会
 - (i) 受託事業
 - オ 組織運営のための取組
 - (ア) 組織人員体制・配置等の最適化
 - (イ) 働き方改革への対応
 - (ウ) 人材育成・職員研修
 - (エ) 庶務報告
 - カ その他
 - (ア) 事業運営の透明化、適正化の推進
 - (イ) 環境への配慮
 - (ウ) 情報の収集
- (2) 収益事業
- ア 公益目的外の施設提供事業
 - (ア) 駐車場経営
 - (イ) オリジナルグッズ販売等
 - (ウ) プレイガイドの運営
 - (エ) 自動販売機の管理運営

2 財務面

(1) 目標及び実績

目標 「サポーター・パートナー会員収入」																	
令和4年度の目標	<p>前年度に引き続き、制度趣旨について、多数の市民に、また社会貢献活動に関心のある企業の方々に、ご理解・ご賛同をいただく。</p> <p>令和2年度より続くコロナ禍の影響により、継続を辞退する企業、個人が相次ぎ、新規開拓ともに苦戦をしているが、現在の会員加入者の皆様には細やかに対応し、継続を促すとともに、積極的に新規加入者を獲得し目標設定の7,000千円を目指す。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>法人：サポーター</td> <td>34 口</td> <td>3,400 千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>〃：スペシャルサポーター</td> <td>10 口</td> <td>1,000 千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>個人：パートナー</td> <td>50 口</td> <td>1,000 千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>〃：スペシャルパートナー</td> <td>80 口</td> <td>1,600 千円</td> <td>計7,000 千円</td> </tr> </table>	法人：サポーター	34 口	3,400 千円		〃：スペシャルサポーター	10 口	1,000 千円		個人：パートナー	50 口	1,000 千円		〃：スペシャルパートナー	80 口	1,600 千円	計7,000 千円
法人：サポーター	34 口	3,400 千円															
〃：スペシャルサポーター	10 口	1,000 千円															
個人：パートナー	50 口	1,000 千円															
〃：スペシャルパートナー	80 口	1,600 千円	計7,000 千円														
令和4年度の取組結果 (※)																	

令和5年度の目標	前年度に引き続き、制度趣旨について、多数の市民に、また社会貢献活動に関心のある企業の方々に、ご理解・ご賛同をいただく。
	新型コロナウイルス感染症の影響で継続いただけなかった企業、個人に改めて再加入を依頼するなど、サポーター・パートナー会員への復帰を促すとともに、積極的に新規加入者を獲得し目標設定の7,000千円を目指す。
	法人：サポーター 34口 3,400千円 〃：スペシャルサポーター 10口 1,000千円 個人：パートナー 50口 1,000千円 〃：スペシャルパートナー 80口 1,600千円 計7,000千円

指標	施設利用料金収入						(単位：千円)	
目標と実績	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
			328,878		606,218	765,392		773,709

指標	サポーター・パートナー会員収入(単年度)の目標値						(単位：千円)	
目標と実績	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
			6,270		5,310	7,000		7,000

主要財務数値									(単位：千円)
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		
	予算	実績	予算	実績	予算	実績(※)	予算	実績(※)	
経常収益	3,027,858	2,569,903	3,001,583	3,001,583	2,967,310		3,042,224		
経常費用	3,110,590	2,584,284	2,999,410	2,999,410	2,952,753		3,000,587		
当期経常増減額	△ 82,732	△ 14,381	2,173	2,173	14,557		41,637		
当期正味財産増減額	△ 33,132	6,108	2,173	2,173	14,557		41,637		
資産合計		- 1,426,672		-		-		-	
負債合計		- 739,791		-		-		-	
正味財産		- 686,882		-		-		-	
うち累積損益額		- 553,883		-		-		-	

(参考) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		R2 決算	R3 決算	R4 決算(※)	R5 予算
委託料	京都コンサートホール管理運営 〔非公募、利用料金制〕	180,233	193,835		169,518
	京都会館管理運営 〔公募、利用料金制〕	395,233	406,727		357,343
	文化会館管理運営 〔公募、利用料金制〕	253,182	257,429		238,324

委託料	自主、共催事業	3,000	3,000		9,340
	事業委託	5,671	3,980		6,238
補助金	事業補助	772,098	859,836		860,000

3 組織面

(1) 目標及び実績

目標 「経営基盤を強化するための適正かつ弾力的な人員配置」	
令和4年度の目標	指定管理施設(7施設)の指定管理期間の最終年度(ロームシアター京都除く)を迎え、これまで蓄積してきた専門知識・ノウハウを継承するため、効果的・効率的・安定的な事業執行を実現する体制を確立する。 また、計画的に人的資本の強化を図るため、令和4年度においても引き続きプロパー登用試験を実施する。
令和4年度の取組結果 (※)	
令和5年度の目標	京都コンサートホール、京都市文化会館(5館)の指定管理期間の初年度であり、ロームシアター京都においては、現行の指定管理期間の後期期間のスタートの年度となる。さらなる効果的・効率的・安定的な事業執行を実現する体制を確立するとともに、プロパー職員の登用試験を実施し、中長期的に財団を支える職員の人材育成にも努める。

指標	適正かつ弾力的な人員構成を測るための具体的なスケジュール							
目標と実績	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標	実績(※)
		・プロパー登用試験の実施(プロパー登用者1人)		・プロパー登用試験の実施(プロパー登用者6人)	・適正かつ弾力的な人員構成の継続的な検討 ・中長期的に財団を支える職員のプロパー登用		・適正かつ弾力的な人員構成の継続的な検討 ・中長期的に財団を支える職員のプロパー登用	

第3 令和4年度の経営評価（令和3年度の経営状況に対する評価）

1 所管局による評価

財務面	<p>前年度から引き続き新型コロナウイルス感染症により悪化したキャッシュフローの改善を目指し、受託事業の実施や営業の強化、割引制度などによる利用の促進に努めたものの、利用日数や利用料金収入の実績に引き続き影響が生じたことで不安定な経営を余儀なくされ、目標値の達成には大きく至らない結果となった。</p> <p>引き続き、補助金や助成金の確保、ファンドレイジングの推進など、収入源の多様化を図ることで、経営状況早期改善に向けた取組みを展開する必要がある。</p> <p>また、令和3年度においては「中期経営計画 2021」に引き続き「中期経営計画 2025」を策定し、全体の効率化や体制整備を行うなど、より円滑な組織運営のための取組を推進した。同計画及び令和4年度経営計画に基づき、持続可能な組織運営と適切な事業運営を推進し、自立した経営かつ、安定的な財団運営に繋がる取組を進められたい。</p>
事業面	<p>音楽をはじめとする芸術及び芸能の振興を目的に、令和3年度においても事業や施設の管理運営を推進した。</p> <p>令和2年度から引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業の中止となったものの、オンライン配信の実施やリハーサル利用の割引制度の実施など、コロナ禍の中においても市民が芸術文化に触れる機会の創出に努めた。また、「安全対策ガイドライン」の策定をはじめとする感染症の状況を踏まえた運用や、設備やサービスの見直しを行うなど、利便性の向上と安心な劇場空間の提供に取り組んだことが評価できる。</p> <p>文化庁京都移転や京都芸大移転を目前に文化振興の機運が高まる中、京都の文化芸術の創造・発信の拠点としての自覚を持ち、さらに魅力的な事業の展開に努められたい。</p>

2 外郭団体総合調整会議による評価

<p>団体の安定的な経営を確立するためには、公演等の企画制作、舞台関係の施設・設備の運用、組織・事業の管理運営、実演芸術の創造など専門的能力を有する人材育成が強く求められる。引き続き、嘱託職員からプロパー職員への登用等により、有能な若手人材の定着に努めていただきたい。</p> <p>また、京都市からの派遣職員の削減検討については、経営計画に継続して掲げられているが、市の財政状況を踏まえ、検討に留まらず、削減を前提とした人員体制の見直しなど、具体的な取組を計画的に進めていただきたい。</p> <p>交響楽団においては、市からの補助金支出を受けていることを踏まえ、「京都市交響楽団ビジョン」に掲げるとおり、より多くの幅広い市民に音楽を届ける鑑賞機会の提供など、活動意義を市民に理解・実感いただける取組に一層努めていただきたい。</p>
--